

十年後のAI教育とは？（実習の構想発表（ジュニア  
（大学1～3年生），新規発表））

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-08-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 弦切, 一浩, 山本, 峻, 辻本, 美良音, 富重, 丞太郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/00028302">http://hdl.handle.net/10297/00028302</a>

## 十年後の AI 教育とは？

弦切一浩（静岡大学情報学部情報科学科）,  
山本峻（静岡大学情報学部情報社会学科）,  
辻本美良音（静岡大学情報学部情報社会学科）,  
富重丞太郎（静岡大学情報学部行動情報学科）

私たちは今回、AI 教育がもたらす十年後の情報化社会での学びについて、文献調査に基づき予測した。AI 教育を導入している例として、機械学習を用いて授業の 10 万時間にも及ぶ記録をもとに教師の指導の最適化を図るオンラインレッスンがある（デジタルナレッジ、2020 年）。またキュビナと呼ばれる AI を用いた学習ツールでは、普通の学習で 14 週間かかる内容を 4 週間に短縮した実績がある（COMPASS、2020 年）。十年後の教育現場においては上記のように、学習の無駄を省く効率化を目的として AI と教師が併用されると予測した。たとえば学校教育特有の「倫理問題」を AI に任せられるかといった課題（張、2019 年）のように、わたしたちは人間にしか指導できないことが教育現場にはあると考える。人間の教師固有の役割と AI の理想的な利用について検討するのが今後の課題である。

<関連実習科目>

PBL 演習